



TITLE:

京大広報 No. 341

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

---

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 341. 京大広報 1987, 341: 383-388

ISSUE DATE:

1987-11-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209338>

RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

# 京大広報

No. 341

京都大学広報委員会



文学部博物館開館披露テープカット — 関連記事本文385ページ

## 目 次

桑原武夫名誉教授が文化勲章を受章…………… 384

栄誉（吉田光邦名誉教授，渡邊信淳名誉教授，  
高田利夫名誉教授，水野政夫名誉教授）…………… 384

文学部博物館開館式及び祝賀会…………… 385

### <紹介>

法学部・帝国主義コレクション…………… 385

### <資料>

昭和62年度教育研究学内特別経費

によるプロジェクト課題…………… 386

学術講演会の開催…………… 387

能楽鑑賞会の開催…………… 387

日 誌…………… 387

### <随想>

22世紀人間の体力を予測する

名誉教授 万井 正人… 388

## ＜大学の動き＞

桑原武夫名誉教授が  
文化勲章を受章

桑原武夫名誉教授は、昭和62年度文化勲章を授与され、11月3日、皇居で伝達式が行われた。

同名誉教授は、明治37年5月10日、敦賀市に生まれ、昭和3年3月京都帝国大学文学部を卒業後、同年4月より大谷大学予科教授、同4年9月より第三高等学校講師嘱託、同7年3月より大阪高等学校講師嘱託、同年9月より大阪高等学校教授に就任、同12年より14年までフランスに留学、同18年11月より東北帝国大学法文学部助教授を経て、同23年11月京都大学教授となり、人文科学研究所において西洋文化部門を担当した。

同名誉教授は、戦前より「事実と創作」「フランス文学の諸相」等、フランス文学研究、及び日中芸術論、日本文化論にわたる広範囲な分野の研究を続けてきたが、とくに前記、京都大学人文科学研究所教授として着任以後、フランス学を唱道、文学、哲学、史学、法学、経済学等にわたる学際的共同研究を主宰、実践してきた。文科方面における共同研究のわが国における嚆矢である。

「ルソー研究」「フランス百科全書の研究」「フ

ランス革命の研究」等に結実したのがそれである。ほかに「文学理論の研究」「中江兆民の研究」等の共同研究の業績もあるが、とくに後者は総合的フランス学の先駆者である明治の中江兆民の顕彰ともいうべきものであって、同名誉教授のフランス学の系譜を示すものである。

なおフランス学を中心とする同名誉教授の個人研究については「桑原武夫集全10巻」に集約されている。

一方、同名誉教授は昭和34年10月より同38年9月まで、人文科学研究所長として、本学行政に参画、また同26年より同48年まで日本学術会議第2～8期の会員に選出され、かつ同会議の第1部長(第4期)、副会長(第5～7期)として、わが国学界の進歩発展に多大の寄与をなした。その間、欧米、アジア、アフリカの諸国に出張、多くの国際学会に日本代表として参加し国際交流に尽力した。同41年フランス共和国より国家勲功騎士章を授与され、ほかフランス政府より三勲章を授与されている。

上のような学問的業績、学界への寄与により、同49年朝日賞を授与され、同52年日本芸術院会員に選ばれ、同54年には文化功労者に顕彰された。また、同57年京都市名誉市民に選ばれた。このたび、文化勲章を授与されたことは喜ばしいことである。

(人文科学研究所)

## ＜栄 誉＞

吉田光邦名誉教授(元人文科学研究所教授 東洋科学技術史)・渡邊信淳名誉教授(元工学部教授 工業化学)・高田利夫名誉教授(元化学研究所教授 無機固体化学・磁性材料)

わが国学術の向上発展のため顕著な功績をあげたことにより、昭和62年11月3日紫綬褒章が授与された。

水野政夫名誉教授(元工学部教授 溶接工学)

わが国の産業発展に学識経験者として寄与したことにより、昭和62年11月3日藍綬褒章が授与された。



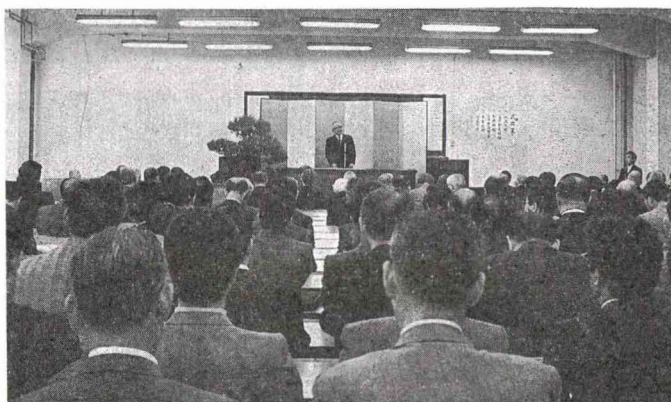
## &lt;部局の動き&gt;

## 文学部博物館開館式及び祝賀会

10月31日(土)法経第5教室において、学内外から関係者約150名の出席のもとに、文学部博物館の開館式及び同博物館にて祝賀会が挙行された。

開館式は午前10時30分から始まり、中 久郎文学部長、西島安則総長の挨拶、榊原郁夫施設部長の工事経過報告のあった後、菅原正弘文部省学術国際局学術情報課課長補佐、沢田敏男前総長から祝辞が述べられた。引き続いて同博物館が披露された後、祝賀会が催され、朝尾直弘館長の挨拶に続き、平澤 興元総長の発声で乾杯し、長谷川

博一理学部長、小葉田 淳名誉教授(元博物館主事)、坪井清足大阪府文化財センター理事長諸氏から祝辞が述べられるなど、終始なごやかなうちに午後1時閉会した。



開会式で祝辞を述べる沢田前総長

## &lt;紹介&gt;

## 法学部・帝国主義コレクション

このたび当学部では、帝国主義コレクションを購入した。そもそも帝国主義は、近代初頭のヨーロッパの膨張に端を発するものであり、そしてそれが展開してゆく過程で、非ヨーロッパ地域は甚大な変化にみまわれた。その変化は、たんにこれらの地域の政治的独立の剥奪、従属的な経済的地位への転落につぎるものではない。さらにいたるところでヨーロッパ対非ヨーロッパの異文化間の対決、摩擦を惹き起し、その中から幾多の革命や戦争、あるいは旧き社会の解体、復興といった現象が立ち現われてくることとなったのである。

本コレクションは、このように帝国主義を、ヨーロッパと非ヨーロッパとの異文化接触ないし対決と位置づけつつ、帝国主義の意味あいを広く文明論的な背景までを視座に含めて検討するための基礎的な文献資料を集めたものである。具体的にはH・J・パーマーストン、B・ディズレリー、W・E・グラッドストーン、セシル・ローズ、G・N・カーゾン、W・S・チャーチル、セオドア・ルーズヴェルト、J・ヘイ、W・ウィルソン、O・V・ビスマルク、ウィルヘルム二世、G・シュトレゼマン、ナポレオン三世、G・クレ

マンソー、C・ドゴール、M・ガンジー、J・ネルー等、帝国主義時代に活躍した政治家の著作や演説集、彼らに関する研究書、さらにはTh・マコーレー、ミル父子、R・キプリングといった文筆家の著作や研究書から成っており、総冊にして1,000冊余りに達している。もとよりここに蒐集されたものは、帝国主義という巨大な対象に比してごくわずかなものであり、とりわけ今日の第三世界に関する政治家や著作家の資料や研究書が欠落していることは否めない。しかし第三世界、とくにインドや東南アジアに関しては既に戦前から貴重な書物が多く集積されているし、ヨーロッパやアメリカに関してもこのテーマに関する資料・書籍が一貫して蒐集されてきている。また本学部附属の国際法政文献資料センターには、『ドイツ帝国議会議事録』(1867—1933)、『ロシア帝国議会議事録』(1906—1917)、『英国議会議事録』(1801—現在)が集積されており、それらは何れも本コレクションを補完する不可欠な基礎資料をなしている。例えば19世紀の『英国議会議事録』におさめられた委員会の速記録、Appendixとして添付された報告書や書簡は、イギリスの植民地支配の政策形成の過程ばかりでなく、現地社会のもともとの姿と植民地支配によるその変容の過程とを知る上でも、今なお一級の資料的価値を有し

ているであろう。

帝国主義に関しては、これまでわが国でも少なからぬ研究がなされてきた。しかしそれらの多くは経済的及び狭義の政治史的な研究に重心がおかれており、またテーマの性質上、政治的ないし党派の見解によって様々に色付けされてきた。しかし帝国主義には異文化接触とそれにまつわるより広い文明論的な意味合いが不可避的につきまとい

ている。しかも現代政治がグローバルな広がりをもち、世界が益々狭くなってゆく昨今、帝国主義をめぐる本格的な研究はより一層緊急なものとなっている。その意味でも本コレクションは研究者と学生の双方にとってきわめて貴重なものであるといえよう。

(法学部)

## <資 料>

### 昭和62年度教育研究学内特別経費によるプロジェクト課題

本年度の上記経費によるプロジェクト課題及び代表者は、下記のとおり決定された。

#### 記

プロジェクト課題	代表者所属・職・氏名	参加者所属部局
京都の文化と学風に関する歴史のおよび文化行動学的研究	文 学 部 教授・酒井 修	文, 教育, 法, 経済, 教養, 人文研
公私関係の歴史的展開と現代の諸問題に関する基礎研究	法 学 部 教授・佐藤 幸治	文, 法, 経済
社会経済システム研究の課題	経 済 学 部 教授・飯野 春樹	文, 法, 経済, 理, 工, 農, 教養, 経済研
研究教育における自然史資料の意義及びその整備の必要性に関する調査研究	理 学 部 教授・河野 昭一	理, 農, 教養
濫用薬物の代謝に関する実験的研究	医 学 部 教授・福井 有公	医, 薬
ロボットを利用した安全なエイズおよびB型肝炎ウイルスの検査法の開発	病 院 講師・伊藤 和彦	病院
植物培養細胞を用いる植物進化についての調査研究	薬 学 部 教授・藤多 哲朗	薬, 東南ア
工学領域における新しい研究組織の創出に関する調査研究 1. 意志決定に関する総合工学の構想についての調査研究 2. 新材料の設計・作成のための基本理念に関する調査研究	工 学 部 教授・高松武一郎	工 工, 原エネ研
地域科学・計画に関する国際的教育・研究体制 一特に地域資源の評価と利用について一	農 学 部 教授・北村貞太郎	文, 理, 工, 農, 教養, アフリカ, 東南ア
環境問題への総合的アプローチの方法と本学におけるその教育への適用の研究	教 養 部 教授・高橋 正立	法, 経済, 理, 医, 工, 農, 教養, 化研, 経済研
活性酸素生物作用の分子機構	食 研 教授・浅田 浩二	理, 医, 薬, 工, 食研
原因不明神経疾患のウイルス学的研究	ウイルス研 教授・石本 秋穂	医, ウイルス研
「人間」概念の自然科学的・人文科学的再検討	霊 長 研 教授・江原 昭善	文, 理, 教養, アフリカ, 人文研, 霊長研
健康に関する生涯教育の検討	保 管 セ 教授・小川 隆三	文, 教育, 医, 薬, 工, 教養, 医短大, 体指セ, 保管セ, 保診



## 学 術 講 演 会 の 開 催

昭和62年度秋季学術講演会を下記のとおり開催します。本学教職員・学生の来聴を歓迎します。

## 記

日 時 昭和62年11月30日(月)午後3時から

場 所 京大会館 101号室

講 師 高 木 博 司(本学名誉教授)

演 題 「脳の情報伝達のしくみと薬」

講師略歴

1948年 京都大学医学部 医学科を卒業、1952年 京都大学医学部助手、1954年 同助教授、1960年 薬学部が創設され2年後、1962年 薬学部教授、1982年 同学部長、1987年退官。医学博士。

同氏は、当初は京都大学医学部において、1962年以降は京都大学薬学部及び薬学研究科において、学生・大学院生・研究生等の指導、育成に携わる一方、モルヒネの鎮痛作用機序の研究、疼痛情報の伝達と制御に関する研究、脳組織からのペプチド・キョートルフィンの単離及びその作用機序の研究等に優れた研究業績をあげられ、1973年にはモルヒネ系鎮痛薬の機序に関する研究にたいして日本薬学会より学術賞を受賞されている。

また学外にあっては、日本薬学会理事、文部省学術審議会専門委員会等を歴任され、薬学、薬理学の発展に尽力されたのみならず学術、教育及び行政面等広い領域で顕著な業績をあげられている。

## 能 楽 鑑 賞 会 の 開 催

本年度能楽鑑賞会を下記のとおり開催します。本学教職員・学生の来場を歓迎します。

## 記

日 時 昭和62年12月7日(月)午後6時開演

場 所 京 都 観 世 会 館

京都市左京区岡崎門勝寺町44

(東山仁王門を東へ約300メートル)

演 目 狂言「無<sup>ふ</sup>布<sup>せ</sup>施<sup>ない</sup>経<sup>きよう</sup>」 茂 山 千之丞  
能「恋<sup>こいの</sup>重<sup>おも</sup>荷<sup>に</sup>」 茂 山 あきら  
片 山 清 司  
片山九郎右衛門  
その他

入 場 無 料

(学生部)

## 日 誌

(1987年10月1日～10月31日)

- 10月5日 建築委員会
- 6日 評議会
- 8日 総長、高等教育・研究機関の調査並びに学術交流に関する打合せのため、連合王国を訪問(18日まで)
- 9日 環境保全委員会
- 21日 安全委員会
- 22日 アメリカ合衆国全米科学アカデミー Frank Press 会長来学、総長と懇談
- ク アメリカ合衆国 Wayne 州立大学木村徳次副学長来学、総長と懇談
- 24日 京都大学創立90周年記念特別講演会
- 26日 ソビエト社会主義共和国連邦 Moscow 大学 A.A. Logunov 総長ほか2名来学、総長と懇談及び本学との学術交流に関する覚書交換並びに学術講演
- 28日 国際交流委員会

- 29日 インドネシア共和国 Darma Persada 大学 Sjarif Thayeb 学長来学、総長と懇談
- 30日 同和問題委員会
- 31日 京都大学市民講座「学問と美」第1日(第2日は11月7日)
- ク 文学部博物館開館式



モスクワ大学ログノフ総長と覚書を交換する  
西島総長(10月26日、総長室で)

